

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成19年12月3日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|----------------------------------|--|--|
| 事業所番号 | 2276400278 | | |
| 法人名 | 有限会社 グループホーム 布衣乃郷 | | |
| 事業所名 | グループホーム布衣乃郷 | | |
| 所在地 (電話番号) | 袋井市堀越694-1 (電 話) 0538-44-8111 | | |
| 評価機関名 | 静岡県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 静岡市葵区駿府町1-70 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年7月11日 | | |

【情報提供票より】(19年6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|------------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成17年4月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 15 人 |
| 職員数 | 13 人 | 常勤 6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 3.35 人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--|----|
| 建物形態 | 単独 | 改築 |
| 建物構造 | A棟(鉄骨)造り(2階建て) B棟 木造平屋(1階建て) 2階建ての1~2階及び1階建ての1階 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|---------|
| 家賃(平均月額) | 50,000 円 | その他の経費(月額) | 理美容代等実費 |
| 敷 金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(100,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,200 円 | | |

(4) 利用者の概要(6月27日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 14 名 | 男性 4 名 | 女性 10 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 5 名 |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | 3 名 |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 85 歳 | 最低 64 歳 | 最高 94 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人社団健誠会永田内科、消化器科医院 |
|---------|----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関先の草花やホームの構造、玄関や広い廊下には椅子やソファが置かれ利用者の居場所になる等、家庭らしい雰囲気が漂っている。開設当初より常勤職員の退職等も殆どなく利用者にとって馴染みの職員の顔は安心して繋がっている。利用者の日々の生活は野菜作り、草取り、花の水やり、雑巾作り、家事の手伝い等、一人ひとりの経験を生かし役割があり、いきいきとした暮しである。ホームの中だけで過ごさずに、年2回の日帰り旅行、週1回の近郊への外出、買い物、散歩等外出の機会を多く作り、希望に沿った外出ができるよう支援している。職員の気付きを自由にカンファレンスシートに記入し介護計画に反映する等、チームケアが発揮されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 利用者と職員と一緒に食事をしたり、片付けする等の改善や注意を必要とする物品の保管庫へ夜間は施錠する等、ホーム内で改善可能な項目についてはすべて改善されている。利用者の視点にたつて常に改善を重ねていく姿勢で取り組んでいる。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 新たな評価項目となり、やや戸惑いもあったとのことであるが、全ての職員が自己評価に取り組んだ。評価に取り組む必要性を十分認識し、これまでの取り組みを振り返るとともに、更なる活動に結び付けようと考えている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 四半期に一回の頻度で開催している。メンバーは利用者及び家族、民生委員、地域包括支援センター職員等で構成している。ホームを地域に理解してもらうところが現在の主な会議内容となっている。今後は、開催回数を重ね、地域住民等の参加も促し、利用者の更なる充実した生活に向けて検討されるように取り組まれることを期待したい。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族の訪問も多く、利用者の暮らしぶりや金銭管理、介護計画等について随時伝えている。意見や要望等を踏まえてサービス提供に繋げており、苦情等があった際にも速やかに解決する仕組みが構築されている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域の文化祭や最寄りの幼稚園、小中学生との交流、散歩等を通じて地域や住民との交流を深めるように取り組んでいる。今後もこれらの取り組みを継続し、地域住民との交流を更に深めるように期待したい。運営推進会議メンバーに自治会役員等を加えていくことも検討して欲しい。 |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○ 印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|----------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | ホーム開設以降、これまでの自宅での生活環境を変えず、その人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして独自の理念をつくりあげている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 玄関及び廊下等、目につきやすい場所に明示されている。また職員会議等では、理念を全員で唱和する等、実践に向けた取り組みがされている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の文化祭、最寄りの幼稚園や小中学生との交流、近隣への散歩等を通じて、地域との交流を図ろうとしている。地域の一員である認識をもっている。 | ○ | 今後も自治会や老人会等に積極的に参加し、地域に必要とされるホームとなるように期待したい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価結果を職員会議等で話し合い改善に取り組んでいる。自己評価は全ての職員が関わり、一人ひとりが記入したものを管理者がまとめた。 | ○ | 評価を行うこと自体の必要性を認識しているので、一過性のものとせず定期的に確認するような取り組みに期待したい。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 4半期に1回程度開催し、利用者や家族、民生委員等が参加し、運営やサービス提供の向上に向けた話し合いを行っている。内容は、職員にも伝えられ、改善に繋げている。 | ○ | 更に地域に根付い運営に繋げるために、地域住民の参画も呼びかけて欲しい。定期的に開催しているので、今後もより良い取り組みに向けた話し合いに期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○ 印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|----------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 定期的に市を訪問し、ホームだよりの配布や利用状況を報告している。 | ○ | 保険者である市(職員)に働きかけ、利用者本位のサービス提供に向けた検討する機会を定期的に設ける等の取り組みに期待したい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 季刊でホーム便りを発行し、家族にも送付している。訪問する家族も多く、その機会に利用者の日常生活の様子を伝えている。また、金銭管理状況や介護計画内容についても報告している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族が意見や要望が言えるような雰囲気づくりに努めている。家族の訪問時にも、意見を聞くようにし、玄関には苦情申出先(連絡先)を明示している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の移動や離職の弊害を理解しており、職員の意見や不満が気軽に言えるようにしている。開設以降、常勤職員の離職はない。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 市主催のケアマネ研修会や各種講習会に受講するようにしている。また、OJTにより職場内研修にも力を入れている。 | ○ | 職員の質の向上に向けた取り組みについての必要性を認識しているので、今後は職種、経験別等に応じて、計画的に取り組まれるように期待したい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 全国GH協会及び県GH協議会に加入し、情報を得ると同時に同業者との情報交換を積極的に行うようにしている。 | ○ | 必要に応じて他ホームへの問合せを行っているが、定期的な交流を通してケース検討等が行えるように期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○ 印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|----------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用を希望する利用者宅を訪問する他、宿泊を含めた体験入居を行う等、職員との顔なじみの関係を作りながらサービス提供するように留意している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | サービス提供を一方的に行うのではなく、利用者の尊厳を損ねることが無いように留意し、出来る限り利用者寄り添いながら共に楽しめるような関係づくりを行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者一人ひとりの希望や意向に出来る限り沿うような支援を大切に考え、旅行やドライブ時にも行き先を利用者とともに考えたり、個人的に食べたいものがある場合等にも個別に支援している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 独自にカンファレンスシートを作成し、日常生活の中で職員が気付いた事柄を常時記入できるようにしている。それらを踏まえ、職員会議で検討して計画策定が行われている。家族の意見も出来る限り反映させている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 月に一度は全ての利用者のモニタリングを行い、2ヶ月に一度の評価表を作成し、6ヶ月に一度の介護計画更新を行っている。状況の変の際には、随時計画見直しを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○ 印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|----------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | ホームの特性を踏まえて、帰省の際の送迎や個人的な外出への同行等、利用者や家族の希望に応じて柔軟に対応するようにしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者のかかりつけ医に通院を希望する利用者には、希望に応じて職員が付き添い、直接かかりつけ医と話し合っその情報を家族に報告するようにしている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合でも家族の意向を踏まえてホームでの生活を継続したケースがある。重度化や終末期に向けた検討の必要性を認識しているが、ホームの方針策定にまでは至っていない状況である。 | ○ | ターミナルケアの問題は一様に行える問題ではないが、そのことを想定して早期に利用者や家族、かかりつけ医等との話し合いがもてるようにホームとしての方針策が行われるように期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した支援が行われている。個人情報の保護のために、記録も事務室に適切に保管され、ホーム便りの写真掲載や配布についても、利用者及び家族の確認を行っている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースが尊重されるように配慮している。起床時間や入浴時間等も利用者に沿って行われる等、食事時間についても柔軟な対応が行われている。また、一日をどう過ごすのかについても、利用者の希望に添うように努力している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○ 印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|----------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事作りを担当する職員が中心となり食事作りを行っている。しかし、利用者の希望を聞き入れて献立変更も柔軟に行われ、利用者も食事作りに関わり、食事時間を楽しくするように配慮が行われている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の希望にあわせていつでも入浴できるように支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 野菜作り、草取り、花の水やり、雑巾作り、家事の手伝い等、利用者一人ひとりの力や経験を活かした役割が持てるよう支援をしている。利用者が楽しみにしている近隣への外出も、皆で希望を出し合って実現するように支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 年2回の日帰り旅行、週1回の郊外への外出、買い物、散歩など外出の機会を数多く作り、希望に添った外出が出来るように支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかける弊害を理解している。職員は利用者の様子を見守り、日中は鍵をかけず自由な暮らしを支援している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署に協力を依頼し、年1回の避難訓練を実施し、災害に備え食料品などの物品も備蓄している。 | ○ | あらゆる事態を想定し、地域住民にも協力が仰げる関係づくりについても検討して医欲しい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○ 印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|----------|-----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食材のバランスを考えて献立を作成し、食べた量は毎食把握、記録している。糖尿病の利用者の食事は、協力医に指導を受けて実施している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間の居間は和室のスペースもあり、居心地良く過ごせる。玄関や広い廊下には椅子やソファが置かれ、利用者の居場所になっている。音の大きさや採光の配慮もされていた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室はそれぞれ趣味の物や使い慣れたものが置かれ、個性あるその人らしい居室になっている。 | | |